川上 高司 ブログ アーカイヴ

2018年

5月7日

世界のXデイ

5 月 12 日は、世界にとって暗黒の始まりとなるかもしれない。トランプ大統領がイランとの歴史的な核合意 JCPOA（Joint Comprehensive Plan for Action ）についてのアメリカの方針を発表する。平たく言えば、この合意を維持するか反故にするかを表明するのである。この合意を巡ってはアメリカ・イスラエル陣営と、英仏独・イラン陣営との対立構造が生まれている。

トランプ大統領が合意の破棄を示唆すると英仏独は合意に留まるよう説得したが無駄とわかるや否や戦術を変えた。フランスのマクロン大統領がワシントンに飛んでトランプ大統領を合意の破棄ではなく「修正してはどうか」と説得を試みた。破棄という最悪の事態を回避するためなら本来ならあり得ない合意の修正も厭わないという焦燥感にあふれているヨーロッパ 3 国に対して、イスラエルははるかに強硬な手段でトランプ大統領の関心を引きつけている。

4 月 30 日、ネタニヤフ首相は 2003 年までのイランの核開発に関する資料を持っていると公表し、イランは「嘘つき」と国際社会での信用を貶める戦術に出た。〈br〉

さらにシリア内のイランのミサイル貯蔵施設を空爆してイランに対して挑発行為を行った。イランが反撃してくれれば合意どころではなくなる。イスラエルにとっては願ってもない展開となる。

イランは資料はＩＡＥＡに提出済みの時代遅れのものであると一蹴し、イスラエルの空爆に対しても沈黙を守っており、冷静さを失っていないのが国際社会にとっては唯一の救いであり希望でもある。

アメリカが核合意を破棄すればイランからすれば合意を遵守する必要はなく、堂々と核開発をすることができる。それでもイランが核合意を維持したいと考えているのはそれが「国際的な合意」であり、国際社会への復帰を実現したいからである。

おそらくトランプ大統領は自らの支持者たちへのアピールとしてイランとの核合意の破棄を 12 日に表明するだろう。そこには国際社会の中での信頼関係や外交交渉が考慮される余地はない。ロウハニ大統領がいうように「政治も知らず、外交音痴、国際条約のなんたるかもわからない」商人大統領の真骨頂である。

5月24日

米中貿易戦争は中国の不戦勝

トランプ政権は中国からの輸入品に対して高関税をかけると発表し、これに対して

中国はアメリカからの農作物の輸入量を削減すると応じ、さながら米中貿易戦争が勃発するのではないかと世界が恐怖に陥った。

トランプ大統領は TPP からの離脱、アルミ製品への高関税の付与など保護主義貿易の道をひた走っている。中国との貿易赤字は 3752 億ドルであり、その 3 分の２にあたる 2500 億ドルは、先の米中首脳会談で中国からの「手土産」としてアメリカ製品の購入で解消が約束された。にもかかわらず中国への姿勢は厳しい。もっとも、中国側は「売られた喧嘩は受けて立つ」と、応戦意欲は高かった。

ところが 5 月 20 日、ムニューチン財務長官は「中国への高関税は当面見送る」と発表したのである。まさに戦う前にアメリカがリングから降りたのである。「棍棒外交」を標榜するトランプが、なぜこのような屈辱的な方向転換を行ったのか。

今回の不名誉な方向転換の最も大きな原因は政権内の対中政策を巡っての分裂である。自由貿易主義者であり親中派である、ムニューチン財務長官やトランプ大統領の首席経済顧問であるラリー・クドロウ、ウイルバー・ロス商務長官グループと、対中強硬派のライトハザー USTR 代表やピーター・ナバロ貿易顧問が、対中貿易政策を巡って鋭く対立していた。もちろん中国側はこの対立を知っており、あとはこの対立をあおればいいだけの話である。中国にとっては赤子の手をひねるより簡単だろう。中国側は何ヶ月もかけてムニューチン財務長官にアプローチし、じっくりと「個人的な信頼関係」を醸成し続けた。そうしてムニューチン財務長官を取り込み、政権内で「中国の代弁者」としたのである。

もちろん、それだけではない。今回ムニューチン派に加勢したのが共和党の農業族議員たちである。中国へ農作物が輸出できなくなるとアメリカ農業界が大打撃を被るため、農業を抱える州の議員たちは大統領に猛烈な圧力をかけた。その圧力にはさすがのトランプ大統領も抵抗できなかった。中国がアメリカ農産物を報復のターゲットにしたのは、偶然ではない。

国内事情だけではなく、北朝鮮問題も絡んでいることは言をまたない。北朝鮮問題の解決に中国の協力は不可欠である。今は中国とことを構えず、北朝鮮問題を優先すべきだという判断が働いたのは間違いない。そして北朝鮮問題はイランやイスラエル問題とも繋がっているのである。

まずは米朝首脳会談を歴史に刻むことがトランプにとって最優先事項なのである。トランプの政策決定プロセスはきわめてわかりやすい。